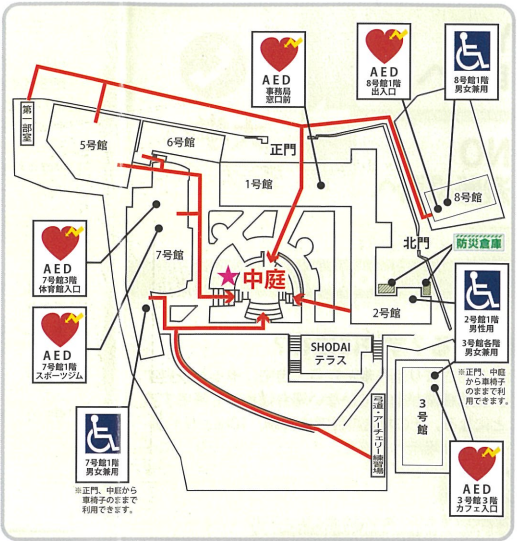


## 横浜商科大学つるみキャンパス避難経路図

学内において災害が発生した場合は、教職員や非常放送の指示に基づいて、落ち着いて行動をしてください。  
学内における一時避難場所は「中庭」です。

- ・ 本学周辺の地域防災拠点は「生妻中学校」「寺尾小学校」「岸谷小学校」
- ・ 本学周辺の広域避難場所は「錦台中学校周辺（神之木公園周辺）」

- 中庭への避難順路
- ★ 一時退避避難場所
- ♿ バリアフリートイレ
- AED (自動体外式除細動器) 設置場所



## 災害が発生したら

### 正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドア等を開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。  
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後、火の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難。  
(エレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止するシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および大学へ安否連絡。

## 地震発生直後は裏面へ

## 日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認。(大学付近および自宅周辺等)
- 家族との連絡方法および待ち合せ場所の確認。
- 災害伝言サービスの確認と登録。(メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認。(災害時徒歩約 2.5 km/h)
- 緊急時メモの作成・記入。
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認。(大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認。
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備。

本マニュアルは横浜商科大学のホームページよりプリントアウトできるので、ご家族にも事前にお伝え下さい。  
<http://www.shodai.ac.jp/pdf/visitor/manual.pdf>  
また、携帯電話にも対応しておりますので、画面メモにて保存してください。ただし、緊急時は携帯電話の充電が切れることもあるので、ポケットマニュアルも合わせて携帯してください。  
※インターネット接続時にパケット通信料がかかります。

## 災害時の対応マニュアル

「災害時に落ち着いて行動しよう」  
「自分の命は、自分で守ろう」



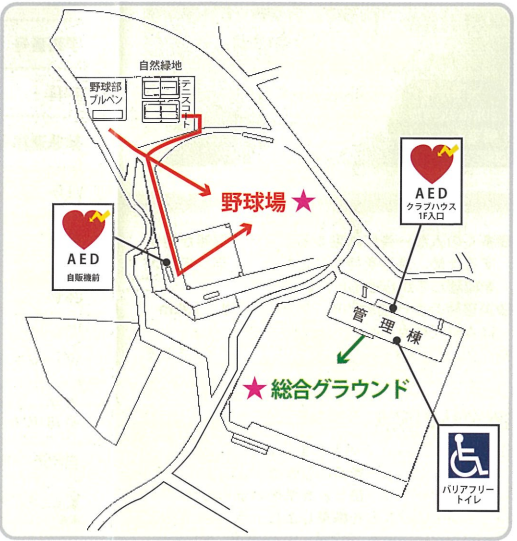
建物の損壊や交通機関に大きな被害が出るような地震(震度6弱程度以上が目安)が発生した場合は、本マニュアルを参考にして、身の安全を守り落ち着いて行動してください。

## 横浜商科大学みどりキャンパス避難経路図

学内において災害が発生した場合は、教職員や非常放送の指示に基づいて、落ち着いて行動をしてください。  
学内における避難場所は「野球場」もしくは「総合グラウンド」です。

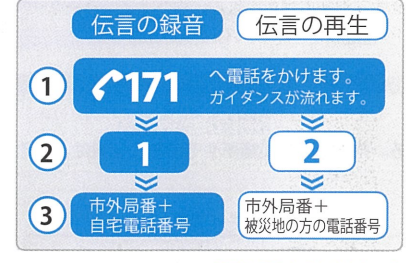
- ・ 本学周辺の地域防災拠点は「山下みどり小学校」
- ・ 本学みどりキャンパスは西八朔町周辺の「広域避難場所」に指定されております。

- 野球場への避難順路
- 総合グラウンドへの避難順路
- ★ 一時退避避難場所
- AED (自動体外式除細動器) 設置場所
- ♿ バリアフリートイレ



## 家族への連絡方法

NTT災害伝言ダイヤルサービス  
地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。



市外局番 電話番号 事前に記入しておきましょう  
※被災地の方も、被災地以外の方も利用方法は同じです。

- 利用可能な端末 / NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数 / 1電話番号あたり1~10伝言
- 録音時間 / 1伝言 30秒以内
- 伝言保存期間 / 2日間 (48時間\*自動消去)

## 事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 携帯各社の災害伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービス。  
あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供される。また、インターネットからも安否情報の確認が可能。

各社のQRコードはこちら

- NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

## 大学への連絡方法

落ち着いたら大学に安否を報告しましょう。

【報告方法】  
以下のQRコード、またはURLからGoogleフォームによる回答

● URL <https://forms.gle/TLgcx1TomaKfDPLF6>

● QRコード

※報告は5分程度で実施できます。安全を確保して落ち着いた状況で回答してください。

【緊急時の連絡先(電話)】  
**045-571-3901**  
横浜商科大学 学生総合支援部

# 地震発生直後

## 地震発生 身を守る

今いる場所は  
本当に安全？

# 揺れがおさまったら

YES  
その場所を動かない

NO  
避難場所へ避難

# 落ち着いたら①

家族との  
安否確認

自宅に歩いて  
帰れる？

# 落ち着いたら②

YES  
自宅へ

NO  
避難場所へ

大学へ  
安否連絡

### POINT

### POINT

### POINT

### POINT



## 大学にいるとき

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。
- 実習中などで周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み揺れがおさまるのを待つ。

### 自分自身の心構え

- 冷静に、落ち着いて行動する。
- 建物の傾き、壁のひび等を確認する。
- 火災が起きていないか？火災の場合は自身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火をする。また、消火が困難と思った場合は火から離れる。
- 負傷者はいないか？負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員へ連絡する。
- 余震が起こる可能性もあるため、慌てずしばらく様子を見る。

### 避難場所へ移動する判断基準

- 天井からの落下物やガラス・黒板・テレビなどが倒れる恐れがある場合、速やかに避難場所へ移動すること。ただし、危険がないと判断した場合は、むやみに動かない方が安全である。

### 安全が確認され行動に移るときの注意点

- 貴重品は身につけ、火災の場合は避難時に煙を吸わないようタオルなどで口を覆う。
- どのルートで移動すれば安全が確認し、避難場所へ移動する。

### 家族の電話番号

続柄 ( )	続柄 ( )
-	-
続柄 ( )	続柄 ( )
-	-

### memo

避難場所は、広く、火災による延焼の恐れがない所が適しています。大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所として想定していますが、地震時の状況により安全な場所へ避難してください。

### <つるみキャンパス>

中庭（一時避難場所）  
錦台中学校（広域避難場所）



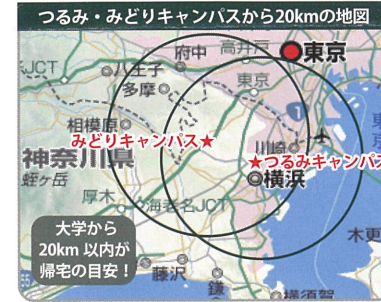
### <みどりキャンパス>

総合グラウンド・野球場（一時避難場所）  
（裏面 みどりキャンパス避難経路図 参照）

### 帰宅する？学校に残る？

余震がおさまらず落ち着いたら、自宅に帰るか検討する。交通機関が動いていない場合は歩いて帰宅することになる。その場合の目安は20km。20kmよりも遠い人は避難場所へ。また、チェーンメールなどに惑わされず、テレビ・ラジオなどで正確な情報を収集しましょう。

※災害時交通機関が長時間不通となった場合に、徒歩で帰宅する目安の距離は20km以内とされている。



- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切。周りの状況を確認してから帰宅しましょう。
- 災害時の歩行速度は約2.5km/時程度、10kmは4時間を要することになります。
- 日没後の行動は危険です。夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、1人での行動は避けましょう。

### 通学時の備え

- 歩きやすい履物で通学しましょう。（サンダルやハイヒールは避難時に危険です）。
- 合図ができるような笛などを携帯しましょう。
- 水、菓子、胎などを携帯しましょう。
- 携帯電話の予備電源（電池式）などを携帯しましょう。



## 通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」は自分で判断してください。

- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所へ移動する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。



## 緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- 現金（小銭も）
- 学生証（免許証なども）
- 健康保険証
- アドレス帳
- タオル・はんそうこう・包帯（家族、友人の連絡先を記入）
- 手回し充電ラジオ・ライト
- 雨具（カッパなど）
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 携帯充電用 USB ケーブル
- 非常用保温アルミシート
- ポリエチレン製ごみ袋
- チョコレート・あめなど
- 油性マジックペン

### その他非常時に必要なアイテム

- 貯金通帳
- 印鑑
- 常備薬とその処方箋
- 上着・下着・靴下
- 運動靴
- リュック
- 卓上コンロ
- 懐中電灯
- ひも・ロープ
- ろうそく
- 予備電池
- 缶切り・栓抜き
- スリッパ
- 洗面用具
- 使い捨てカイロ
- 非常用食料・水

memo

※記入は油性のペンを使用してください。

## 緊急時パーソナルメモ

氏名 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

学科 \_\_\_\_\_

緊急連絡先 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

持病 あり なし 常用薬 あり なし

アレルギー あり なし ( \_\_\_\_\_ )

大学にいるときの避難場所 \_\_\_\_\_

自宅近くの避難場所 \_\_\_\_\_

家族との待ち合せ場所  
家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。